

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25570006

研究課題名(和文)東西交流史の新たな視角：メキシコ史研究から見る東・東南アジアの文化変容

研究課題名(英文)A Dialogue on East - West Exchange: Perspectives from Mexican History on Cultural Transformation in East and Southeast Asia.

研究代表者

宮原 暁 (MIYAHARA, GYO)

大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・教授

研究者番号：70294171

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、16～18世紀、メキシコからフィリピン諸島を経由してモノ、技術、情報が中国大陸(あるいは東アジア)にもたらされたプロセスの解明を試みた。

メキシコとフィリピンの間の海上貿易は、サツマイモ、タバコ、トウモロコシ、パイナップルなどの新大陸起源の農作物がフィリピン諸島、さらに中国大陸にもたらされたが、その受容と利用のされ方には、フィリピン諸島および中国大陸でのモノ、技術、情報の「翻訳」「編集」が重層的に関係していることが明らかとなった。そうしたなかフィリピン諸島では、中国系メスティソとイエズス会がモノ、技術、情報の「翻訳」「編集」に重要な役割を果たしていたことが解明された。

研究成果の概要(英文)：This study has illustrated how commodities, technologies and information had been brought from Mexico to East and Southeast Asia during the 16 to 18th Century, and how they had been translated and edited into several local versions.

With dialogue between Philippine Studies and Mexican History, we could find a unique way of translation both in the Philippines and Fujian, China, when crops originated in the New Continent such as sweet potato, corn, tobacco and pineapple were adopted to those places. We could also figure out the essential roles of Chinese Mestizos and Jesuit missionaries for the translation, for instance, the pineapple fiber manufacturing and the chocolate drinking complex respectively.

研究分野：社会人類学

キーワード：フィリピン諸島 メキシコ サツマイモ パイナップル チョコレート 文化の翻訳 中国系メスティソ イエズス会

1. 研究開始当初の背景

東・東南アジアとヨーロッパの交流史に関する従来の研究は、16～18世紀、メキシコからフィリピン諸島にもたらされたモノ、技術、情報が東・東南アジアの文化変容にどのような影響を与えたかについて、必ずしも十分に答えてこなかった。

メキシコとフィリピン諸島を結ぶ海上貿易のルートは、銀やサツマイモ、トウモロコシ、建築技術を東・東南アジアにもたらしたルートであるとともに、このルートによってメキシコに運ばれた日本磁器に関連して、ヨーロッパの需要や嗜好などの情報をもたらされたルートでもあった。本研究の研究組織は、2011年2月と2012年4月にそれぞれ「メキシコとアジアの接点：フィリピンを中心に」と「東西交流史研究の新たな視角：九州とヌエバ・エスピニャの間」と題するワークショップを開催し、太平洋を舞台にスペイン・メキシコ・フィリピン・日本を結ぶ歴史を検証してきた。本研究は、これら二つのワークショップを発展させ、メキシコ史研究と東アジア地域研究、東南アジア地域研究の間に新たな協働を生み出そうとするものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、メキシコ史研究と東アジア、東南アジア地域研究の協働により、16～18世紀、ヨーロッパ世界との邂逅に伴う東・東南アジアの文化変容を再解釈することにある。メキシコとフィリピンの間の海上貿易は、キリスト教、銀やサツマイモ、建築技術、ヨーロッパでの嗜好に関する情報をフィリピン諸島にもたらした。こうしたモノ、技術、情報は、フィリピン諸島の貿易の一翼を担う中国系メスティソや、東・東南アジアの貿易を担う中国人商人によって様々な「翻訳」「編集」が加えられた後に、他の東・東南アジア地域に伝達されたと考えられる。これら一連のプロセスをメキシコ史の視点から評価し、東・東南アジア地域の文化変容の意味を再解釈しようというのが本研究のねらいである。

3. 研究の方法

本研究では、16～18世紀の東・東南アジアにおける文化変容を、(1)メキシコからもたらされたヨーロッパ文化の直接的な受容、(2)媒介者による「翻訳」「編集」の2つを区別し、以下の4点に関してメキシコ、フィリピン、台湾、中国において歴史資料の発掘に努めるとともに、歴史学と人類学の協働による現地調査を実施する。

銀や穀物、根茎類、嗜好品、建築技術や嗜好情報等、メキシコからフィリピン諸島にもたらされたモノ、技術、情報が東・東南アジアに波及していく過程。例えば東・東南アジアのサツマイモはメキシコのものに比較して粘弾性が高いが、モノ、技術、情報の伝播には、それら社会の実情に即して解釈し、変更を加える媒介者の役割が重要である。本研究では、こうした媒介者のモノ、技術、情報への介入を「翻訳」「編集」と呼び、東・東南アジアの文化変容に与えた影響を探る。

また媒介者は翻訳・編集に関与することで植民地経済のなかに一定の地位を獲得すると考えられるが、媒介者の出現が個々の社会の政治力学に与える影響についても考察する。

メキシコからフィリピンにもたらされるモノ、技術、情報は、ある程度メキシコ側の東・東南アジア認識

に依存している。本研究では、こうしたメキシコ側の認識についても検討する。

4. 研究成果

本研究では、メキシコからフィリピン諸島を経由してモノ、技術、情報が中国大陸(あるいは東アジア)にもたらされたプロセスと、メキシコ、およびフィリピン諸島におけるモノ、技術、情報の「翻訳」「編集」について、以下の知見と仮説を得ることができた。

中南米原産の農作物、嗜好品が、メキシコからフィリピン経由で中国大陸にどのように伝播したか、またその後、東・東南アジアの他の地域にどのように伝播したか。

サツマイモなど、のちに福建省での人口増加と海外移民の起爆剤となった農作物は、伝承上、中国大陸においてその重要性が認められていたにもかかわらず、メキシコ、フィリピンではその重要性があまり認められていなかった。サツマイモ、キャッサバの中国大陸での受容はスムーズであったが、その一つの理由としてデンプン加工技術がもともとあり、サツマイモ、キャッサバは、デンプンを含有する作物として認識されていたことが考えられる。

フィリピン諸島でのサツマイモ受容を考える上で、インタークロッピングが一つの鍵となる。ミンダナオなどでサツマイモが自家栽培されるときは、他の作物とともに植えられたり、ヤシ林の中で育てられる。今日の福建省においても、サツマイモはピーナツとともに栽培される。またフィリピンでは、焼畑でサツマイモが栽培されるときに、陸稲などを栽培した裏作として栽培される。

メキシコからフィリピンを経由してタバコが中国大陸に入るのほき、サツマイモなどの農作物以上に早く、しかも山間部の客家系住民の居住地が多い。換金性の高い嗜好品の伝播が他の農作物に比べて早いことがわかる。一方、飲料としてのチョコレートは、フィリピンでの普及にもかかわらず、中国大陸、および他の東南アジアでは普及していない。またパイナップルの繊維(ピニャ)を用いた織物も、中国大陸、および他の東南アジアでは普及していない。どちらもフィリピン諸島では、中国系メスティソが主要な消費者であったこと、ピニャでは生産者でもあったことを考え合わせると興味深い。

陶磁器等の流通経路、および需要や流行、製作技術等に関する情報がどのように伝達されたか。メキシコとフィリピン諸島では、有田製のチョコレートカップが見つかっているが、それは何らかのかたちでメキシコやフィリピンの需要と流行に関する情報が鎖国期の日本にもたらされたことを示している。一方、フィリピンでのチョコレートカップは、イエズス会の関連施設で見つかることが少なくなく、メキシコからフィリピン、メキシコからヨーロッパへのチョコレートの伝播にイエズス会が果たした役割の大きさがうかがえる。

カトリックの布教がカトリックを受容した社会にどのような変容をもたらしたか。東・東南アジアでのカトリックの布教は、いくつかの修道会によって行われるが、社会や文化の変容を引き起こしたという点で、とりわけ中国におけるイエズス会の役割は無

視できない。マテオ・リッチは、明末に天文学や数学など西欧の科学的知識をもたらしたが、より重要なのは、清代の中国に遠近法をもたらしたジョゼッペ・カスティリオーネであろう。カスティリオーネは、皇帝の肖像画を描く際などに、伝統的な清朝の技法を取り入れながらも「写實的」な手法で様々な題材を描いた。カスティリオーネの絵画は、当時の中国人が環境を認識する仕方に関与したと考えられる。

フィリピン諸島において、中国人商人や中国系メスティソがモノ、技術、情報の媒介者としてどのような役割を果たしたか。18世紀半ば以降のフィリピン諸島では、カトリックに改宗していない中国人の居住を認めておらず、代わりに中国人と現地の住民との混血であるメスティソが商業的な利権を握るようになる。そうしたなかで、飲料としてのチョコレートの受容やピニヤ織の普及にメスティソが果たした役割は看過できない。とりわけ福建省とフィリピン諸島での衣服の様式に従いながらも、のちにマリア・クララと呼ばれる様式を生み出したことは興味深い。

メキシコにおいて、そこから東・東南アジアへもたらされたモノ、技術、情報はどのように認識されていたのだろうか。中南米原産の農作物に関して、例えばサツマイモやトウモロコシなどメキシコにおいてさほど重視されていなかったもの、チョコレートやタバコなど意識的に導入されたもの、ピニヤのように本来の目的とは異ったかたちで利用されるようになったものなど、様々である。特にピニヤは、中国産シルクの輸入による銀の流出を抑える目的で生産が奨励されたと言われ、技術の編集のプロセスを物語っている。

一方、本研究で当初の課題としてあげていながらも、さらに研究が必要な問題として、メキシコから流入した銀の流通にともなう東・東南アジアの経済基盤の変化の問題がある。この問題は、他のモノ、技術、情報の伝播プロセスから独立した研究課題として設定していたものであるが、ピニヤ織物に見られるように農作物の伝播プロセスが当初の想定以上に複雑であることが明らかになり、銀の問題も他のモノ、技術、情報の伝播、編集、翻訳プロセス全体との関わりにおいて把握する必要が出てきた。当初、フィリピン諸島におけるスペイン植民地統治者の関心は、もっぱら鉱山開発にあったことや、諸島の周縁部で銀が呪物に変わることも銀の問題を考える上で重要なポイントとなる。

上記の成果の一部については、国際ワークショップ『東西交流の新たな視角』(Workshop “New Perspectives on Euro-Asian-American Maritime History.”)(セブ、サンカルロス大学、2014年8月8日)、およびInternational Interdisciplinary Conference “MOVEMENTS, NARRATIVES AND LANDSCAPES”(University of Zadar, Croatia, 2015年6月5日)で報告をした。

また国内では、ワークショップ『東西交流の新たな視角2』(長崎大学、2015年9月14日)を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計29件)

[学会発表](計36件)

[図書](計2件)

[作品](計1件)

(図書)

井上幸孝(編著)、明石書店、『メソアメリカを知るための58章』、2014年。

立岩礼子(Reiko Tateiwa)、“La rebelión del marqués del Valle: Un examen del gobierno virreinal en Nueva España en 1566”, Espacio, Tiempo y Forma. Serie IV, Historia Moderna, UNED. 査読有、(印刷中)

(論文)

井上幸孝、「メキシコ市内旧先住民村落の歴史とその現代的意味」、『専修大学人文科学研究月報』第268号、査読無、2014年、19-43頁。

青山和夫・坂井正人・井上幸孝・井関睦美・長谷川悦夫・嘉幡茂・松本雄一「先コロンブス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書の記述はどう変わったのか 新学習指導要領に沿って改訂された高等学校世界史教科書の検証」、『古代アメリカ』第16号、査読有、2014年、85-100頁。

Inoue, Yukitaka “El significado de los Títulos primordiales para los pueblos coloniales y actuales”(研究ノート)、『京都ラテンアメリカ研究所紀要』13号、査読有、2014年、19-30頁。

井上幸孝、「メキシコ盆地における自然現象と災害の歴史記録」、『専修人文論集』第93号、専修大学、pp. 29-54、2013.10、査読無

井上幸孝、「2012年の歴史学界 - 回顧と展望 - ラテン・アメリカ(学界展望記事)、『史学雑誌』第122巻第5号、史学会、pp. 389-391、2013.05 査読無(依頼原稿)

井上幸孝、「西洋の拡張と土地の命名(1) コロンの第1回航海と「新しい」の系譜」、『専修人文論集』97、査読無、2015、197-224頁。

井上幸孝、「ヌエバ・エスパーニャの先住民記録に見る日本とアジア チマルバインの『日記』を中心に」、『スペイン史研究』28号(支倉400周年の特集号)、査読無(依頼原稿)、2014年12月。

菅谷成子、「スペイン領フィリピンにおけるカトリック信仰—中国人と聖母マリア崇敬」、『人文学論叢』(愛媛大学人文学会)第15号、査読なし、2013、75-87頁。

Sugaya Nariko, “Spanish Colonial Manila in Transition: Trade and Society at the Turn of the Nineteenth Century,” 『愛媛大学法文学部論集』(人文学科編)第36号査読なし、2014年、19-32頁。

菅谷成子、「フィリピンにおける『中国人』の『記憶』あるいは『忘却』—『フィリピン人』の生成をめぐる覚え書き」、『多文化社会研究』(愛媛大学法文学部人文学科「記憶とアイデンティティ形成」研究プロジェクト)第1号、査読なし、2014年、39-45頁。

菅谷成子、「フィリピンにおける『中国人』—その『記憶』と『忘却』の文化史的研究のための覚え書き—」、『多文

化社会研究』(愛媛大学人文学科「記憶とアイデンティティ形成」プロジェクト)第2号、2015、40-47頁。

菅谷成子、「『マニラ公正証書原簿』覚書-19世紀転換期前後のスペイン領マニラ社会の諸相』『資料学の方法を探る(15)』愛媛大学「資料学」研究会、2016年、27-33頁。

菅谷成子、「フィリピン・セブ-東洋と西洋の会おう地-」平成27年度愛媛大学公開講座『世界の都市と地域(3)』2016、15-20頁。

野上建紀、「ガレオン貿易と肥前磁器-二つの大洋を横断した日本のやきもの-」『東洋陶磁』No.42 pp.141-176 2013年(査読付)

野上建紀、「アンティグア・グアテマラ出土の東洋磁器」『金沢大学考古学紀要』第35号 金沢大学人文学類考古学研究室、2013年、87-111頁。

野上建紀、「近世鎖国期における先駆的輸出工業製品の考古学的研究-五大陸に渡った有田焼-」『高梨学術奨励基金年報-平成24年度研究成果概要報告-』公益財団法人高梨学術奨励基金 2013年、193-200頁。

野上建紀、「アジアの交易都市における陶磁器需要と流通に関する問題」『研究報告書 平成25年度<第50号>』公益財団法人三島海雲記念財団、2013年、95-100頁。

野上建紀、「清朝の海禁政策と陶磁器貿易」『金沢大学考古学紀要』第37号、査読なし、2015年、43-52頁。

ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、「Mexico City」深見奈緒子、山田協太、内山愉太編『全球都市全史研究会報告書 居住環境類型からメガシティのグローバルな連環と動態を捉える』総合地球環境学研究所・メガ都市プロジェクト、2014年、193-195頁。

ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、「Manila」深見奈緒子、山田協太、内山愉太編『全球都市全史研究会報告書 居住環境類型からメガシティのグローバルな連環と動態を捉える』総合地球環境学研究所・メガ都市プロジェクト、2014年、197-199頁。

ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、Funo Shuji、(2015)、ピノンド(マニラ)にみられる住居類型の成立とその変容に関する考察、CONSIDERATIONS ON FORMATION AND TRANSFORMATION OF HOUSE TYPES IN BINONDO DISTRICT (MANILA), 日本建築学会計画系論文集Journal of Architecture Institute of Japan, n.(81)721, pag 625頁~632, 2016.03.01

ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、Funo Shuji、Ryosuke Inoue、Koji Mabuchi、(2015)、35 仮設住宅の再利用(セカンドライフ)に関する研究 タクロパン市(フィリピン)での仮設住宅プロジェクトのケーススタディ、REUSE OF TEMPORARY HOUSING (SECOND LIFE) - Study on the Temporary housing project in Tacloban city (Philippines)-, 住宅総合研究財団研究論文集 Journal of the Housing Research Foundation "JUSOKEN", n. 42, Pag 179~ 190, 2016,03,31,

ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、Jesús Alberto PULIDO ARCAS, Funo Shuji、(2015)、CONSIDERATIONS ON URBAN AND BLOCK FORMATION URBAN AND BLOCK FORMATION OF THE OLD QUARTER OF CADIZ, 日本建築学会計画系論文集Journal of Architecture Institute of Japan, n.(80)718, pag 2855頁~2552, 2860, 2015.07.01,

ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、Jesús Alberto PULIDO ARCAS, Funo Shuji、(2015)、CONSIDERATIONS ON FORMATION AND TRANSFORMATION OF HOUSE TYPES IN THE OLD QUARTER OF CADIZ, 日本建築学会計画系論文集Journal of Architecture Institute of Japan, n.(80)713, pag 1557頁~1564, 2015.12.01

伏見岳志、「スペイン領アメリカにおける逃亡者コミュニティの生成」、伏見岳志、『歴史学研究』、査読無、924号、139-165ページ、2014年。

伏見岳志、「Actividades comerciales de Simón Váez de Sevilla según su libro manual de caja」、Takeshi FUSHIMI、The Hiyoshi Review of Humanities、査読無、No.29、2014、pp.1-25。

伏見岳志、「スペイン領メキシコの相続制度に関する諸問題」水井万里子他編『女性から描く世界史:17~20世紀への新しいアプローチ』勉誠出版、2015年、128-144頁。

伏見岳志、「一九世紀メキシコ都市部の独身女性たち」水井万里子他編『世界のなかの女性たち』勉誠出版、2015、97-110頁。

伏見岳志、「Una memoria de un contrabandista trasatlántica del siglo XVII,」 *La economía marítima en España y las Indias*, eds. José Quintero González, Marina Alfonso Mola y Carlos Martínez Shaw, Excmo. Ayuntamiento de San Fernando, 査読あり、2015, pp.29-38.

(学会発表)

Inoue Okubo, Yukitaka “Los pueblos originarios de la Ciudad de México: su actualidad e historicidad”, Universidad Iberoamericana(Departamento de Arte)(メキシコ市), 招待講演, 2014.02.18.

Inoue Okubo, Yukitaka, “Japón y los japoneses vistos por un indígena del México del siglo XVII: el Diario de Chimalpain”, 歴史シンポジウム「慶長遣欧使節団来西400年の歴史」, セルバンテス文化センター東京, 招待講演, 2013.10.27.

井上幸孝「メソアメリカの絵文書」, アンデス文明研究会 定例講座, 東京外国語大学本郷サテライト, 2014.01.18.

井上幸孝、「チマルパインの『第七報告書』 先スペイン期の自然災害と自然現象の記録を中心に」, 古代アメリカ学会第18回研究大会(山形大学), 2013.12.07.

Inoue Okubo, Yukitaka, “El significado de los Títulos primordiales para el pueblo”, IX Encuentro Internacional de Historiografía: Transculturación, espacios y tiempos, Universidad Autónoma Metropolitana (Casa Rafael Galván) (メキシコ市), 2013.08.20.

井上幸孝、「ウィスキルカンとクアヒマルパのテチアロヤン絵文書 植民地時代メキシコの先住民土地文書の考察」日本ラテンアメリカ学会第34回定期大会, 獨協大学, 2013.06.02.

Inoue, Yukitaka, “Aspectos históricos de los pueblos originarios de la ciudad de México”, XXV Congreso de CANELA, Confederación Académica Nipona, Española y Latinoamericana, 国際基督教大学, 2013.05.18.

Inoue Okubo, Yukitaka, “Un análisis de dos códigos

- Techialoyan: Huixquilucan y Cuajimalpa”, XXXV Convegno Internazionale di Americanistica, Palazzo dei Priori(イタリア、ペルージャ), 2013.05.06.
- 井上幸孝、「チマルパインの『日記』と支倉使節団」(メキシコ文化歴史講演会2014第3回、メキシコ日本アミーゴ会主催)(メキシコ大使館)、(招待講演)、2014年07月04日。
- 井上幸孝、“Chimalpain’s Diario: A Nahuatl View on Asia and the Philippines” 国際ワークショップ『東西交流の新たな視角』(セブ、サンカルロス大学)、2014年8月8日。
- 井上幸孝、“Japón y Asia en el Diario de Chimalpain”, Simposio Internacional: Retos y esperanzas de Japón en el siglo XXI: a 400 años de la Misión Hasekura (イベロアメリカーナ大学、メキシコ)(招待講演)、2014年10月29日。
- 井上幸孝、「ナワトル語文書を読む メキシコ植民地時代の歴史研究から」第10回関東イスパニア語会(主婦会館プラザエフ(東京))招待講演、2015年4月18日。
- Inoue, Yukitaka “Hacia una historiografía novohispana: las fuentes españolas e indígenas”, Seminario permanente de crónicas novohispanas y andinas, Dirección de Estudios Históricos-Instituto Nacional de Antropología e Historia(メキシコ国立人類学歴史学研究所・歴史研究部)(招待発表者)、2015年3月13日。
- Sugaya Nariko, “Colonial Lives in Spanish Manila at the Turn of the Nineteenth Century,” Paper presented at the Philippine Studies Conference in Japan, 2014 (PSCJ2014), held at the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, February 28-March 1, 2014.
- 菅谷成子、“Colonial Lives in Spanish Manila, 1780-1820” 国際ワークショップ『東西交流の新たな視角』(Workshop “New Perspectives on Euro-Asian-American Maritime History.”)(セブ、サンカルロス大学)、2014年8月8日。
- 菅谷成子、「19世紀転換期のスペイン領マニラの貿易の諸相(覚書)」ワークショップ『東西交流の新たな視角2』(長崎大学)、2015.9.14
- Nogami, Takenori, “Porcelanas Orientales Encontradas en Antigua Guatemala.” XXXVII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala/Museo Nacional de Arqueología, 2013.7.23.
- 平沢陽、梅谷敬三、ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、布野修司、「バギオ(フィリピン)におけるダニエル H・バーナムの都市計画に関する考察」日本建築学会大会(北海道)学術講演会(札幌市) 2013年8月30日~9月1日。
- 野上建紀、「太平洋を渡った陶磁器」(東南アジア考古学会例会・アジア文化財協力協会総会:専修大学) 2015.4.18
- 野上建紀、「ラテンアメリカにおける肥前磁器流通」(第11回海港都市国際研討会:台湾中央研究院) 2015.4.25
- Andi Amri, Yasuyuki Kosaka, Kenichiro Arai, Juan Ramon Jimenez Verdejo, Naoko Fukami, “Comparison of Dwelt Environments and Urban Dynamisms in Jakarta and Manila, The Megacities of Islam: Focus on Jakarta and Cairo”, Islamic Area Studies, Waseda University Graduate School of Asian and African Area Studies (ASAFAS) Yoshida Campus, Kyoto University, 2014年2月15日。
- ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン、フィリピンにおける被災文化遺産調査報告、文化遺産国際協力コンソー第24回 東南アジア分科会 25年、2013年12月9日。
- ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン, Spanish Grid Cities in Asia, Workshop on Temporary House, San Carlos University of Cebu (Philippines), 2013年12月16日。
- ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン Considerations on Heritage Architecture in Philipinnes, Malaysia - Japan Conservation Research Colloquium 2013, JSPS Asia and Africa Science Platform Program NIHU Program, Collaboration Studies between IAS and INDAS, Yoshida Campus, Kyoto University. 2013年10月22-24日。
- ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン (2013年9月) Urban Planning and colonial Architecture in Asia, Faculty of Architecture Khon Kaen University (Thailand).
- ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン Research Methodology in field of Urban Planning and Colonial Architecture, Faculty of Architecture Khon Kaen University (Thailand), 2013年8月。
- 北口智貴、馬淵好司、ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、布野 修司、(2015)タクロバン(レイテ、フィリピン)・バランガイ37・シーウォールの空間構成に関する研究 その1 施設分布と居住者のプロフィール、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集(都市計画)、2015年9月。
- 馬淵好司、北口智貴、ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、布野 修司、(2015)タクロバン(レイテ、フィリピン)・バランガイ37・シーウォールの空間構成に関する研究 その2 住居の構成要素と類型、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集(都市計画)、2015年9月。
- ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、Pulido-Arcas, Jesus A., José María del Espino, Pablo Gonzalez Serna、(2015) Considerations on Urban Recovery and Rehabilitation Plan in Tacloban city (Philippines)、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集(都市計画)、2015年9月。
- 後藤優治、永井拓生、ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、芦澤竜(2015)、Slow Re-Construction ~ボホール地震により崩壊した教会建築の復興~、日本建築学会大会(関東)、2015年9月。
- José María del Espino, Pulido-Arcas, Jesus A., Pablo Gonzalez Serna、ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、(2015) Considerations on urban form in the old quarter of Cadiz (Spain) Part1 -Block formation and transformation-、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集(都市計画)、2015年9月。
- Pablo Gonzalez Serna, José María del Espino, Pulido-Arcas, Jesus A., ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、(2015) Considerations on urban form in the old quarter of Cadiz (Spain) Part2 -House types-、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集(都市計画)、2015年9月。
- Pulido-Arcas, Jesus A., Pablo Gonzalez Serna, José María del Espino、ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン、

(2015) Considerations on urban form in the old quarter of Cadiz (Spain) Part 3 -Environmental values-、日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集(都市計画)、2015年9月。

伏見岳志、「スペイン領アメリカにおける逃亡者コミュニティの生成」(歴史学研究会大会、合同部会シンポジウム「フロンティアとアイデンティティ」、駒澤大学)、2014年5月。

伏見岳志、「Commercial Activities of a Manila Merchant in the Early Seventeenth Century.」国際ワークショップ『東西交流の新たな視角』(Workshop “New Perspectives on Euro-Asian-American Maritime History.”)(セブ、サンカルロス大学)、2014年8月8日。

Miyahara, Gyo. “1730 Jesuit House in Cebu” as a Focal Point for “Chinese Exchange”, International Interdisciplinary Conference “MOVEMENTS, NARRATIVES AND LANDSCAPES,” University of Zadar, Croatia, 2015.6.5.

作品

Melva Java, Juan Ramon Jimenez Verdejo, Donald Lara (2013年12月) Project Proposal Cultural Emergency Response (CER) Project for Rehabilitation of San Guillermo de Aquitana Parish Church, Dalaguete, Cebu, Philippines. (2014-2015)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮原暁(大阪大学グローバルコラボレーションセンター・教授)

研究者番号: 70294171

(2) 研究分担者

井上幸孝(専修大学文学部・教授)

研究者番号: 20399075

伏見岳志(慶応義塾大学商学部・准教授)

研究者番号: 70376581

立岩礼子(京都外国語大学外国語学部・教授)

研究者番号: 80321058

菅谷成子(愛媛大学法文学部・教授)

研究者番号: 90202126

ヒメネス・ホアン・ラモン(滋賀県立大学環境科学部・准教授)

研究者番号: 10525281

野上建紀(長崎大学多文化社会学部・准教授)

研究者番号: 60722030